

特定調達品目候補群一覧表（工法）

提案品目名、品目概要及び環境負荷低減効果は提案者からの提出資料から抜粋したものです。

統合品目名称	提案品目名	提案品目の概要	環境負荷低減効果	比較対象品目名	検討結果	
					分類	理由等
地中埋設可能な外型枠を用いた埋設構造物構築工法	掘削幅縮小工法（ゼロスペース工法）	開削工事における掘削幅を縮小する技術であり、ボックスカルバートなどの地下構造物を構築する際、従来ではコンクリート打設用外型枠の設置・撤去のための作業スペース（片側で80～90cm程度）を必要としたものが、本工法を適用することにより、当該作業スペースをほぼゼロに近づけることを可能とし、埋設可能な外型枠（ゼロスペースボード）を使用することで土留め壁の引抜き時の構造物の健全性を保持できる施工技術である。本工法により、作業ヤード縮小（工事渋滞解消）、掘削土、埋戻し土の抑制、鋼矢板を撤去することによる再使用化等に寄与できる。	従来の現場打ち地下構造物構築工事と比較して、工事規模が小さくて、「工事中の円滑な交通流を確保（渋滞の抑制）」「工事施工を速く（工期短縮）」「環境にやさしく（発生土・埋戻し土等の抑制）」などの効果が生み出される。また、埋設可能な外型枠材の主成分はポリスチレン再生プラスチック（混入重量割合52%）であり再生材料を使用した製品としてエコマーク認定品である。	現場打ち地下構造物施工法（ボックスカルバート、フーチングなど）	④②（①）	○本品目については、統合品目「地中埋設可能な外型枠を用いた埋設構造物構築工法」に該当するものと判断して検討させていただきました。 ○調達1単位あたりの低減効果が小さく、期待される環境負荷低減効果が相対的に小さいと考えられるため、次回以降の特定調達品目の候補として継続的に検討させていただくこととしました ○公共工事における使用実績が十分でない等、実際と同等の条件下で検証及び評価が十分になされていなかったため、次回以降の特定調達品目の候補として継続的に検討させていただくこととしました ○上記課題を解決した後に、コスト面について普及とともに比較対象品と同程度になる見込みを確認する必要があります
泥水循環型地中連続壁工法	GSS工法（ジェコソイルシステム工法）	ソイルセメント柱列式連続壁工法とは、セメント系懸濁液を削孔混練装置の先端から吐出し、原位置土と混合攪拌してソイルセメントを造成して連続した止水壁を構築する工法である。 GSS工法は、ソイルセメント柱列式連続壁工法の施工に伴って発生する泥土をリサイクルプラントにて分級処理して液状分を抽出し、セメント系懸濁液材料の一部として再利用することにより、使用材料と処分土量が低減できる技術である。	使用材料と産業廃棄物である処分土量を低減することにより、工事現場の搬出入車両が減少し、環境負荷、廃棄物処分量、有害物質の削減が図れる。	ソイルセメント柱列式連続壁工法	③（①）	○本品目については、統合品目「泥水循環型地中連続壁工法」に該当するものと判断して検討させていただきました。 ○JIS、JAS等の公的規準を満足または準拠していないなど、品質確保について不確実性が残ると考えられるため、次回以降の特定調達品目の候補として継続的に検討させていただくこととしました ○公共工事における使用実績が十分でない等、実際と同等の条件下で検証及び評価が十分になされていなかったため、次回以降の特定調達品目の候補として継続的に検討させていただくこととしました ○上記課題を解決した後に、コスト面について普及とともに比較対象品と同程度になる見込みを確認する必要があります
建設汚泥を発生しない地盤改良工法	AMP工法	提案品目は、軟弱地盤にセメントミルク等の固化材を注入して、機械的に混合攪拌し、地盤を強化する工法に係るものである。現在、一般的に使用される地盤改良工法では、掘削時に水を噴射し、混合攪拌時に固化材を注入するので、地盤に加えた水、固化材のほとんどが地表面に噴出し、セメント交じりの排泥（建設汚泥）となる。しかし、提案品目では、地盤を掘削するときに水を用いない上、施工機械のビットの形状に工夫をこらしたので、固化材を注入、攪拌混合するときにも一切の排泥が出ない。排泥が出ないことにより、最終処分場に排泥を運ぶ必要がないだけでなく、地盤改良に要する費用も低減できるものである。	排泥が出ないので、現場のゼロエミッションに貢献できる。排泥が出ないので最終処分場を必要としない、その分だけコストが安くなる。地球の温暖化防止に貢献できる。	CCP工法等の超高压噴射系の地盤改良工法	③①	○本品目については、統合品目「建設汚泥を発生しない地盤改良工法」に該当するものと判断して検討させていただきました。 ○JIS、JAS等の公的規準を満足または準拠していないなど、品質確保について不確実性が残ると考えられるため、次回以降の特定調達品目の候補として継続的に検討させていただくこととしました ○コストが通常品に比べ、著しく高いと考えられるため、次回以降の特定調達品目の候補として継続的に検討させていただきますこととしました
建設発生土を用いた地盤改良工法	リソイル工法	SCP（サンドコンパクションパイル）工法、SD（サンドドレーン）工法の施工方法を改善した上で、建設発生土等（石炭灰、スラグ、再生砕石、貝殻類など）を砂の代わりに中詰め材料として使用可能とする工法。対象地盤および改良目的は、粘土地盤の場合支持力増加・圧密促進・杭の横抵抗増加、砂地盤の場合締固めによる液状化防止などがある。杭材に細粒分が多く含まれ、排水が困難な場合には、杭周辺にプラスチックボードドレーン等を配置して、排水補助を行う。なお、使用する材料の含水比を25%以下にするために、場合によっては事前に生石灰を添加することがある。	同一現場での発生土の有効利用がはかれるので、通常のSCP工法に比べて土砂採取の軽減（採掘に伴う自然破壊抑制＝地球環境保護）、処分場負担軽減、運搬エネルギーが削減できる。また、現場周辺での運搬時の交通公害が少ない。	天然に存在する山砂、海砂を用いるサンドコンパクションパイル（SCP）工法、サンドドレーン（SD）工法	②（①）	○本品目については、統合品目「建設発生土を用いた地盤改良工法」に該当するものと判断して検討させていただきました。 ○公共工事における使用実績が十分でない等、実際と同等の条件下で検証及び評価が十分になされていなかったため、次回以降の特定調達品目の候補として継続的に検討させていただくこととしました ○上記課題を解決した後に、コスト面について普及とともに比較対象品と同程度になる見込みを確認する必要があります

特定調達品目候補群一覧表（工法）

提案品目名、品目概要及び環境負荷低減効果は提案者からの提出資料から抜粋したものです。

統合品目名称	提案品目名	提案品目の概要	環境負荷低減効果	比較対象品目名	検討結果	
					分類	理由等
周辺の植生を再現する法面緑化工法	埋土種子を利用した吹付緑化工法	工事により消失する樹林から表土を採取し、これに接合剤等を配合して法面に吹き付けることで、表土中の埋土種子が発芽し緑化される。	法面上にその土地由来の多様性の高い植物群落を形成させることができ、また遺伝子構成のかく乱を生じないことから、生物多様性保全に寄与する。現場発生表土の有効利用となり残土発生量を削減できる。	切土法面については植生基材吹付工法、盛土法面については畚土吹付工法。	④③ (①)	<p>○平成17年度は、資料の提出をいただいておりませんが、再精査した結果、昨年度と同じ判断とさせていただきます。</p> <p>○本品目については、統合品目「周辺の植生を再現する法面緑化工法」に該当するものと判断して検討させていただきました。</p> <p>○判断の基準を設定することが難しいと判断し、次回以降の特定調達品目の候補として継続的に検討させていただきますこととしました</p> <p>○JIS、JAS等の公的規準を満足または準拠していないなど、品質確保について不確実性が残ると考えられるため、次回以降の特定調達品目の候補として継続的に検討させていただきますこととしました</p> <p>○目的物の性能を確保するための十分な確実性を得ることが難しいと判断し、次回以降の特定調達品目の候補として継続的に検討させていただきますこととしました</p> <p>○上記課題を解決した後に、コスト面について普及とともに比較対象品と同程度になる見込みを確認する必要があります</p> <p>○なお、今後も新たな資料の提出をいただけない場合は、継続的な検討が困難となる場合がありますので予めご了承ください。</p>
周辺の植生を再現する法面緑化工法	埋土種子利用緑化工法（マザーソイル工法）	本提案工法は施工地周辺の隣地表土のうち、埋土種子が多く含まれる表層土を土壌シードバンクとして活用する遅速緑化工法で、外来種子を含む購入種子を一切用いず、地域固有の植物のみで緑化を図る全く新しいタイプののり面緑化工法です。	施工現場及びその周辺の表層土に含まれる埋土種子や根茎を使用することで、施工地周辺の生態系とほぼ同じ植生を復元させることが出来る。また、表層土を使用する分だけ、生育基盤材の使用及び現地発生土の量を削減することが出来る。	苗木設置吹付工法	④③ (①)	<p>○平成17年度は、資料の提出をいただいておりませんが、再精査した結果、昨年度と同じ判断とさせていただきます。</p> <p>○本品目については、統合品目「周辺の植生を再現する法面緑化工法」に該当するものと判断して検討させていただきました。</p> <p>○判断の基準を設定することが難しいと判断し、次回以降の特定調達品目の候補として継続的に検討させていただきますこととしました</p> <p>○JIS、JAS等の公的規準を満足または準拠していないなど、品質確保について不確実性が残ると考えられるため、次回以降の特定調達品目の候補として継続的に検討させていただきますこととしました</p> <p>○目的物の性能を確保するための十分な確実性を得ることが難しいと判断し、次回以降の特定調達品目の候補として継続的に検討させていただきますこととしました</p> <p>○上記課題を解決した後に、コスト面について普及とともに比較対象品と同程度になる見込みを確認する必要があります</p> <p>○なお、今後も新たな資料の提出をいただけない場合は、継続的な検討が困難となる場合がありますので予めご了承ください。</p>
周辺の植生を再現する法面緑化工法	埋土種子緑化工法	埋土種子緑化手法は、表土の中に蓄えられた多種多様な植物の種子（埋土種子）を活用し、地域固有の植生を早期に復元する緑化手法である。具体的には、工事で失われる表土を緑化したい場所に撒き出すことで、表土中の埋土種子が発芽・生育することで緑化を図る工法である。	<p>■地域自然生態系を元の姿により近い形で復元・保全できる。</p> <p>■外来種の植生による地域固有の植物の駆逐や遺伝子攪乱などが防止できる。</p> <p>■法面などの早期安定化や景観の速やかな復元に寄与する。</p>	木本植物による法面緑化工法（NETIS QS-990024）	④③ (①)	<p>○平成17年度は、資料の提出をいただいておりませんが、再精査した結果、昨年度と同じ判断とさせていただきます。</p> <p>○本品目については、統合品目「周辺の植生を再現する法面緑化工法」に該当するものと判断して検討させていただきました。</p> <p>○判断の基準を設定することが難しいと判断し、次回以降の特定調達品目の候補として継続的に検討させていただきますこととしました</p> <p>○JIS、JAS等の公的規準を満足または準拠していないなど、品質確保について不確実性が残ると考えられるため、次回以降の特定調達品目の候補として継続的に検討させていただきますこととしました</p> <p>○目的物の性能を確保するための十分な確実性を得ることが難しいと判断し、次回以降の特定調達品目の候補として継続的に検討させていただきますこととしました</p> <p>○上記課題を解決した後に、コスト面について普及とともに比較対象品と同程度になる見込みを確認する必要があります</p> <p>○なお、今後も新たな資料の提出をいただけない場合は、継続的な検討が困難となる場合がありますので予めご了承ください。</p>